第18回夢・未来熊谷ジュニア議会

【質問】 質問番号1　市長公室関係

議席番号1　熊谷東中学校　佐々木（ささき）　渉（しょう）　議員

熊谷市自体の知名度

近年、暑さなどがニュース等で報道されている熊谷市ですが、その知名度は本当に高いのでしょうか。報道で見る程度で、実際に来たことがある人や、近くに来たから寄ってみようと、熊谷市に訪れる人は多くないと思います。

そこで、テレビ番組で紹介されるような面白い取組を実施したり、シンボルとなるものを増やしていくのはいかがでしょうか。

議席番号2　吉岡中学校　長谷川（はせがわ）　芽依（めい）　議員

熊谷市の災害対策について

最近は地球温暖化の影響により、各地で自然災害が増えています。ここ熊谷でも、過去に大雨で氾濫の危険が差し迫り、避難指示が出されたこともありました。荒川、利根川などの川は、大雨が降った時に氾濫してしまう恐れがあります。そこで、氾濫を少しでも防ぎ、市民が安心できるよう、川付近と高低差がない地域に、高さを付ければいいのではないかと思いました。

また、万一の場合に備えて、お年寄りも安心して避難できるように、避難所への避難訓練を行い、地域が助け合って災害から身を守れるような体制づくりをしてはどうでしょうか。

【答弁】 質問番号1　市長公室関係

市長

佐々木渉議員さん、長谷川芽依議員さんの質問に、私から全般的にお答えします。

はじめに、佐々木さんの「熊谷市自体の知名度」についてですが、熊谷市は、佐々木さんが例に挙げた暑さやラグビータウンなど、全国的に取り上げられる話題もあることから、その知名度は決して低いものではないと思っています。

しかし、まだ熊谷市の魅力を知らない方も多いため、佐々木さんからご提案いただいた、 魅力的な取組やシンボルを増やしたり、メディアに取り上げてもらえるよう積極的に情報発信を行うことが、重要であると考えています。

そこで、市民の皆さんの熊谷への愛着と誇りを育み、市内外に熊谷の魅力を効果的に発信していく「シティプロモーション」の準備を進めているところです。

こうした取組により、熊谷のファンとなり、観光等で訪れる人が増え、そして熊谷に住んでくれることを期待しています。

次に、長谷川さんの「熊谷市の災害対策について」ですが、近年、国内では、風水害等の自然災害により、各地で深刻な被害が発生しています。

国が管理する一級河川の荒川、利根川を抱える熊谷市も、平成23年の東日本大震災をはじめ、25年の竜巻や令和元年東日本台風などに見舞われましたが、その教訓を生かし、避難所や防災行政無線の整備、災害備蓄品の充実を図るとともに、建物などへの浸水被害を防止するため、総合的な治水対策に取り組んできたところです。これからも、大切な生命と財産を守るため、市民の皆さんと一緒に、災害に強いまちづくりを進めていきたいと考えています。

市長公室長

続きまして、佐々木渉議員さんの「熊谷市自体の知名度」についてお答えします。
熊谷市は平成19年に当時の「日本一の暑さ」を記録し、全国に名前が知られることとなりました。また、令和元年に日本で開催されたラグビーワールドカップ 2019 では、開催都市の一つとして国内だけでなく世界に向けたPRができました。

これらは、今日の熊谷を表す代名詞になっていますが、熊谷市には、「うちわ祭」や「歓喜院聖天堂」のように、多くの伝統行事や歴史・文化遺産があり、固有の地域資源として、熊谷の魅力を支える土台になっています。

さらに、現在、熊谷市では、デジタルの力で市民の皆さんの暮らしを豊かに変えていく「スマートシティ」の取組を進めており、その一例として、今月から熊谷市地域電子マネー、「クマPAY」の利用が始まったところです。

このように、熊谷が元々持っている価値や資源とともに、市が行っている政策や事業について、キャッチコピーやロゴ等の活用による、効果的な情報発信やPR活動を実施し、市のイメージのブランド化を図り、熊谷のファンづくりにつなげていきたいと思います。

危機管理監

続きまして長谷川芽依議員さんの「熊谷市の災害対策について」お答えします。

荒川と利根川は、私たちの暮らしを守り、産業を発展させる上で、大変重要な役割を担っているので、国が管理をしています。

また、河川の堤防整備は、原則として、下流側から上流側に向って、順番に工事を行うこととなっていますので、市内の堤防整備が開始されるまでには、まだしばらく時間が

かかります。
　そのため、現在、関係する市や町と協力して、なるべく早い時期に堤防整備が実現するように要望活動を行うとともに、緊急の対応が必要な箇所について整備のお願いをしています。
　次に、災害に対する地域の体制づくりですが、災害が発生したときに被害を軽減するためには、地域で協力して助けあうことが欠かせません。熊谷市には、地域の皆様の「自分たちの地域は自分たちで守る」という意思に基づき、自主的に結成された自主防災組織が268団体あり、防災知識の普及、防災訓練の実施、災害危険個所の把握、防災備蓄品の整理・点検など、日頃から地域の防災・減災への取組を行っていただいています。
　これからも、災害に強い地域づくりを進めるため、引き続き自主防災組織の支援を積極的に行っていきます。

【質問】 質問番号2 総合政策部関係

議席番号3　荒川中学校　越谷（こしたに）　悠生（ゆうき）　議員

海外からの移住について

今、日本中で少子化が問題になっていますが、近年では外国人の移住が増えていると聞きます。

そこで、熊谷市も海外からの移住を増やすために、外国語版の市のHPの作成や移住支援のための部署の設置、SNSやパンフレットなどを通じた情報発信はできないでしょうか。ご検討をお願いします。

議席番号4　大麻生中学校　荏原（えはら）　あいり　議員

ゆうゆうバスの本数について

私たちの住んでいる熊谷市には、100 円で利用できる便利な「ゆうゆうバス」が通っています。しかし、本数が少なく、時間も限られているので、一度乗り遅れてしまうと、次のバスが数時間後になることもあります。

そこで、バスの本数をもっと増やすのはどうでしょうか。そうすることにより、さらに便利になると思います。

議席番号5　中条中学校　横田（よこた）　陽（はる）　議員

熊谷市のスポーツチームについて

熊谷にはスポーツチームがありますが、私のまわりの大人たちはあまり知らないように感じます。試合を見に行くには親に連れて行ってもらう必要があり、「行こう」と言っても親の興味がなければ連れて行ってもらえません。

そこで、親世代の大人たちに、チームや選手に興味を持ってもらうために、運動会や祭り、タグラグビー教室などにチームの選手たちに来てもらい、触れ合う機会を増やすことが大切だと思います。また、そのような行事には、私たち子ども世代、親世代、高齢者世代といろいろな世代が来ているので、幅広い年代の人に選手を知ってもらえ、選手を知ることでチーム、さらにはスポーツにも興味が湧くと思います。

議席番号6　妻沼西中学校　栗原（くりばら）　一真（かずま）　議員

ラグビー人気の向上について

僕は2019年のＷ杯でラグビーを好きになりました。しかし、周りにはラグビーに興味がない人が多いです。現在、アルカス熊谷の選手の方々が小・中学校に出向き、ラグビーを指導してくださっています。そこで提案なのですが、パナソニックワイルドナイツの選手の皆さんにも来ていただき、小・中学校で特別授業を行ったり、イベントを行ったりするのはどうでしょうか。さらに、SNS でそれらの魅力を伝えていくと良いと思います。

【答弁】 総合政策学部関係

市長

越谷悠生議員さん、荏原あいり議員さん、横田陽議員さん、栗原一馬議員さんの質問に、私から全般的にお答えします。

初めに、越谷さんの「海外からの移住について」ですが、少子化が進む中、熊谷市のまちの元気を維持するためには、移住や定住促進等の人口減少対策は大変重要であると認識しています。

海外からの移住をしやすくするには、まず、今、熊谷にお住いの外国人の方々にも暮らしやすいまちである必要があります。

今後はデジタル技術等も活用し、国籍に関わらず、あらゆる世代の方が安心して生活でき、暮らしやすいと実感できる、多様性のある持続可能なまちづくりに取り組んでいきます。

次に、荏原さんの「ゆうゆうバスの本数について」ですが、荏原さんには、ゆうゆうバスをご利用いただき、ありがとうございます。

ゆうゆうバスは、民間路線バスなどが走っていない地域を中心に、交通弱者といわれる高齢者や障害者の方など、多くの方に利用いただけるよう運行しています。

ご提案については、近年のバス運転士不足などにより対応が難しい部分もありますが、利便性向上のため、効果的な仕組みを研究していきたいと考えています。

次に、横田さんの「熊谷市のスポーツチームについて」ですが、本市を本拠としているチームの皆さんには、各種スポーツ教室での技術指導だけでなく、学校の創立記念事業や交通安全運動等のイベントに、積極的に参加いただき、市民との交流をいただいています。これからも熊谷市として、各チームに可能な限り協力をお願いしていきます。

次に、栗原さんの「ラグビーの人気向上について」ですが、ワイルドナイツの皆さんには、市のイベント等ではいろいろご協力をいただいています。これからも、SNS を活用するなど、幅広い世代に届くような情報発信に努め、ラグビーの魅力を伝えていきます。

副市長

続きまして、越谷悠生議員さんの「海外からの移住について」にお答えします。

市ホームページには、外国人の方でも利用できるよう、英語、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語の5か国語に翻訳する機能があります。

また、外国人の方向けページを作成し、新型コロナウイルス関連情報や防災のポイントなど、重要な情報をお知らせしています。

また、「市報くまがや」の掲載記事のうち、外国人の方に有益な情報等をまとめた外国語版広報誌「熊谷フレンズ」を定期的に発行しています。

海外からの移住支援の専門部署はありませんが、SNS 等の活用も含め、移住・定住促進につながる情報発信の手法等についても、引き続き研究したいと考えています。

総合政策部長

続きまして、荏原あいり議員さんの「ゆうゆうバスの本数について」にお答えします。

ゆうゆうバスは、地域の交通手段として多くの方々にご利用いただいています

が、市内の交通空白・不便地域を主に運行しているため、１本当たりの運行ルートが長くなって本数が少なくなっているのが現状です。
　また、バス運転士不足のほか、来年度には運転士の働き方改革が予定されており、バスの本数の減少などダイヤの見直しを行う必要が生じます。
　そのような中でも、ルートの見直しや他の交通機関との接続等を見直し、利便性を高めていきたいと考えています。

　続きまして、横田陽議員さんの「熊谷市のスポーツチームについて」お答えします。
　現在、ラグビーの埼玉パナソニックワイルドナイツ、女子サッカーのちふれＡＳエルフェン埼玉、野球の埼玉武蔵ヒートベアーズ、女子ラグビーのアルカスクイーン熊谷の４チームが、本市を本拠地として活動しており、各チームともに、市民に身近に感じてもらえるよう、公開練習やホームゲーム時の市民招待など、様々な企画に取り組んでいただいています。
　さらに、市の事業にも積極的に協力いただいており、スケジュールの許す限り、小・中学校への出張授業や交通安全運動の１日警察署長、うちわ祭などにも参加いただいています。
　熊谷市としても、多くの市民の皆様に直接試合会場に足を運んでもらえるよう、市報やホームページ、ＳＮＳでの情報発信に加え、昨年度から、市のスマートフォンアプリ「くまぶら」内に、試合観戦のスタンプラリーコーナーを設け、スタンプ数に応じて、抽選でプレゼントが当たる企画を実施するなど、各チームの情報発信に努めています。
　スポーツチームが身近にある環境は、熊谷の大きな魅力の一つですので、引き続き各種イベントやスポーツ教室等への選手の参加をお願いし、直接選手と触れ合える機会を増やすとともに、幅広い世代に伝わるよう各チームの情報発信を強化していきます。

　続きまして、栗原一真議員さんの「ラグビー人気の向上について」お答えします。
　現在、小中学生を対象としたラグビーポスター展やラグビータウン熊谷のスローガン「スクマム！クマガヤ」を活用した街中の装飾などで、ラグビーを身近に感じてもらえるような取組みを進めています。
　また、令和３年に埼玉パナソニックワイルドナイツが本拠地を熊谷市に移してからは、優勝パレードやファン交流イベントなど、チームと連携したイベントを実施しています。
　小中学校での特別授業については、各学校からの依頼により埼玉パナソニックワイルドナイツが実施しており、これまでに十数校で行っています。こういった取組みやイベントの様子を市報やSNSを活用し情報発信することで、ラグビーの魅力向上に取り組んでいますが、「百聞は一見にしかず」のことわざのように、実際に試合会場まで足を運んでいただき、その迫力を体験してもらうことが大切であると考えます。
　栗原さんからも、ぜひご家族、お友達に、ラグビーの魅力を発信していただきますようお願いします。

【質問】 質問番号3　市民部関係

議席番号7　富士見中学校　兼子（かねこ） ゆめ 議員

ボランティアを通じた学割制度について

熊谷市の特産物として、熊谷市のおいしい水を使った「雪くま」というものがあります。しかし、私の学校の同級生に「雪くま」を食べたことがあるか聞いたところ、あるという人が少ないことを知り、とても驚きました。その原因の一つとして考えられるのが値段です。私たち中学生にとって「雪くま」は、高級かき氷という高価なイメージがあり、馴染みにくい存在です。

そこで、市内の中学生や高校生の消費活動を増やすためにも、ボンランティア活動を行い、その活動に応じてポイントをため、企業と連携をして、そのポイントで「雪くま」が割引されるなどの仕組みを作るのはどうでしょうか。

議席番号8　妻沼東中学校　市野瀬（いちのせ） 綾乃（あやの） 議員

自治会による地域活性化について

日頃から熊谷市、そして地域がより良くなるように力を注いでいただきありがとうございます。私は、以前テレビで、中学生が自治会に入り地域の行事を手伝っているというのを見ました。私が住んでいる地域の自治会は高齢者の方が多く、若い人が少ないため、地域主催の行事がないので少し寂しく感じます。より地域を活性化させるためには自治会に若い人が入会することが必要だと考えます。

そのために、自治会に入ることの利点や取り組んでいることを、市報やお便りなど、多くの人の目につきやすいもので広めるのはどうでしょうか。自治会が地域の人の交流の機会となり人脈が広がれば、非常時に住民同士で助け合うことができると思われます。

議席番号9　別府中学校　倉本（くらもと） 真輔（しんすけ） 議員

熊谷の治安

私は夜、学習塾に通っていますが、週末になると、お酒に酔った人を沢山見かけ、酔った人に絡まれないか不安を感じることがあります。

そこで、市民団体や自治会、商店街、警察などの団体による見回りを行ったり、中学生と協力してポスターや看板を製作し、駅周辺に掲示したりするのはいかがでしょうか。注意喚起や、具体的な行動指針をアピールすることができると考えています。

熊谷市の治安が強化され、夜、習い事をしている子どもたちにとっても良い状況になってほしいと思います。

議席番号10　大里中学校　橋本（はしもと） 重蔵（じゅうぞう） 議員

防犯灯の数を増やせないか

僕が通っている通学路には、防犯灯がなく夜になると周りが見えなくなってしまいます。さらに、小学生も使う道なので明るくしないと不審者や事故などにあってしまいます。

また、小・中学生だけでなく大人の方や高校生なども利用する道なので、僕の通学路に限らず防犯灯が足りていなかったり、子どもたちが通る道として安全ではなかったりしたら防犯灯を設置してほしいです。

【答弁】 市民部関係

市長

兼子ゆめ議員さん、市野瀬綾乃議員さん、倉本真輔議員さん、橋本重蔵議員さんの質問に、私から全般的にお答えします。

はじめに、兼子さんの「ボランティア活動を通じた学割制度について」ですが、熊谷市では、来年3月から「まちを元気にし、市民が誇れるまち」にする活動の参加者が、ポイントを集め、市や店舗などが提供する体験やサービスと交換できるコミュニティポイント事業を開始します。ポイントの名称は「クマポ」です。

クマポにより、市民の皆さんがボランティア活動などの市民活動に関心を持ち、また、ポイントが使える店舗や市民活動団体と新しいつながりができ、地域活動がより活性化することを期待しています。この事業で、「雪くま」とクマポの連携も、十分考えられると思います。

次に、市野瀬さんの「自治会による地域活性化について」ですが、市内には、周辺の複数の自治会で構成される地区自治会連合会という大きな単位で、お祭りやイベント等に取り組んでいる地域もあります。まずは地域の身近な情報ツールである回覧板や、ご近所との会話などから自治会の取組や地域活動の情報を収集し、市野瀬さんには、可能であれば、学校の生徒向けの広報紙などで記事に取り上げて広めるなど、力を貸してほしいと思います。

また、自治会活動は、高齢の方が多い印象があるのかと思いますが、それぞれの地域では、幅広い世代が行事に参加しやすいように工夫されていると思いますので、是非、ご家族や友人と声をかけあって、地域の行事に参加してみてください。

次に、倉本さんの「熊谷の治安」についてですが、熊谷市では、皆さんが、安全で安心して暮らせるまちづくりのために、防犯灯や防犯カメラなどを設置するハード面の対策、市や警察、地域住民等による防犯パトロールや防犯キャンペーンの実施、また、ポスター等による啓発活動などのソフト面の対策を、効果的に組み合わせて実施しています。

これからも、市、市民及び関係機関が連携しながら、犯罪を抑止する効果のある防犯カメラなどの設置や防犯活動を支援し、安心安全なまちづくりを推進していきたいと考えています。

次に、橋本さんの「防犯灯の数を増やせないか」についてですが、熊谷市では、犯罪の起こりにくい環境の整備を目的として、通学路を始め、暗くて危険な場所に、自治会と協力して防犯灯を設置しています。

設置に当たっては、「地域の安全は地域で守る」という防犯意識の下、原則として、地域の自治会に設置をお願いし、市では設置費用などを支援しています。

現在、熊谷市内には、約 18,300 灯の防犯灯が設置されていますが、まだまだ暗いところもあると思いますので、必要な場所に設置を進めていきます。これからも地域と市が協力して、安心して暮らせるまちづくりに取り組んでいきたいと考えています。

市民部長

続きまして、兼子ゆめ議員さんの「ボランティア活動を通じた学割制度について」お答えします。

熊谷市では、多くの市民の皆さんが、地域で、清掃活動、環境美化、防犯、防災など、

様々な活動を行っています。皆さんが地域活動に関心を持ち、楽しんで参加して、その活動が継続されるきっかけとなるよう、活動に参加したときに、ポイントがつき、そのポイントを貯めて、体験やサービスに利用できるコミュニティポイント事業を計画しています。ポイントの名称は「クマポ」で、現在、クマポがもらえる活動や使うことができる体験やサービスなどを、具体的に検討しているところです。

兼子さんのご提案のように、クマポの活用につながるアイデアを、これからも広くお聞きして、来年3月の開始に向けて、魅力ある事業にしていきたいと考えています。

続きまして、市野瀬綾乃議員さんの「自治会による地域活性化について」お答えします。

熊谷市内には、362の自治会があり、市が把握している自治会への加入率は世帯単位で約70％となっています。各自治会では、防災活動として自主防災組織の訓練、防犯活動として防犯灯の設置管理や児童生徒の登下校の見守り、ごみ集積所の設置管理や分別、地域コミュニティ活動として、お祭りや運動会、環境美化活動として530（ゴミゼロ）運動や公園の清掃、広報活動として「市報くまがや」の配布協力など、自分たちが住んでいる地域のために、幅広く様々な活動に取り組んでいます。

自治会に入る利点や活動内容については、各自治会の集合組織である熊谷市自治会連合会が、「広報紙ひろば」やホームページでお知らせをしています。また、加入を呼びかけるため、日本語のほか中国語、韓国語など6か国語版のリーフレットを用意し、配布しています。

市野瀬さんのご提案のように、様々な広報の方法によって、若い皆さんが少しでも自治会に興味を持ち、活動に参加することで、地域の活性化につなげていきたいと思います。

続きまして、倉本真輔議員さんの「熊谷の治安」についてお答えします。

熊谷市では、熊谷駅近くに「熊谷駅前防犯センター安心館」を設置し、周辺地域の犯罪抑止のため、夜の時間帯にパトロールアドバイザーによる巡回を行っています。

また、児童・生徒の登下校時には、自治会や地域のボランティア団体が、「地域の安全は地域で守る」という防犯意識の下、見守り活動として防犯パトロールを実施しています。

熊谷駅周辺には「安心館」といった防犯の施設や「熊谷駅前交番」がありますので、何か不安に感じることや怖い思いをすることがあれば、ためらわずに利用してください。緊急の際は、周りにいる大人に助けを求める勇気も大切です。

また、倉本さんから提案がありましたポスターの掲示につきましては、毎年、熊谷警察署と一緒に組織した「熊谷防犯協会」を通じて、市内の小中学生から防犯ポスターを募集しています。この中から優秀作品として選出されたポスターを、防犯意識の向上や犯罪の起こりにくい環境づくりに役立てるため、広く市民の目にふれる駅周辺に掲示できるよう、各関係団体と調整していきたいと考えています。

続きまして、橋本重蔵議員さんの「防犯灯の数を増やせないか」についてお答えします。

大きな道路には、国や県、市などの道路管理者が、それぞれの基準や設置の必要性を考慮し、道路照明灯を設置しています。一方で、周辺が暗くて細い道路などには、夜間における犯罪防止と通行の安全を確保するため、熊谷市と自治会とが協力して、毎年、防犯灯と呼ばれる小型の街灯を設置しています。そして、昨年度は、熊谷市内に約 260 灯の防犯灯を設置しました。

橋本さんが、下校の際に、暗くて不安である、また、危険と感じるような場所があれば、保護者を通じて地元自治会の役員の方などに、防犯灯の設置について相談をしてください。

また、暗くなってから自転車で帰宅するときには、ヘルメットを着用し、ライトを点灯するなど、事故や様々な危険から、自分の身を守ることも心がけてください。万が一、不審者等を見かけた際は、近寄らず、熊谷警察署や近くの交番、駐在所に連絡するようにお願いします。

これからも、熊谷市では犯罪のないまちの実現を目指して、自治会等による防犯灯の設置等を支援するとともに、地域の皆さんと協力し、事故防止や防犯対策を推進していきたいと考えています。

【質問】 質問番号4 福祉部関係

議席番号11　富士見中学校　大野（おおの）　真寛（まひろ）　議員

移動販売を増やし、高齢者にとって住みよい街を

熊谷市には 45 か所移動販売があります。遠くまで買い物に行けない高齢者にとって、近くで実際に手をとって買い物ができる環境を作ってあげられるのは本当に素晴らしいことだと思います。

私は以前、移動販売のボランティアを行いました。その時、高齢者の人が歩いて買い物に来るのを見て、とても辛そうだと感じました。また、移動販売自体に来られる高齢者は少ないように感じました。

そこで、移動販売を増やし、高齢者の方々がもっと楽に買い物ができるようにするのはどうでしょうか。

また、高齢者の方に商品を届けると商品割引がもらえる等の取組をしていけば、関わるボランティアの方の数も増えていくと思います。そしてそのことを、地域にチラシ等で大々的に発信することで、高齢者がより住みよい街になっていくと良いと思います。

議席番号12　玉井中学校　加瀬（かせ）　浬（かいり）　議員

もっと気軽に行ける施設

小さな子どもがいる保護者の方から「子どもが騒いでしまい、他の方に迷惑をかけてしまうのではと思うと外出しづらい」という声を聞きました。私の親も外出しづらかったと思っていたそうです。

子育てしやすい環境をつくるためにも、熊谷市内で、子どもが騒いでも気にならないような親子向けの施設を増やすなど、気軽に誰でも行ける場所が増えると良いと思いますが、いかがでしょうか。市としての取組や、今後の計画を教えてください。

議席番号13　別府中学校　平川（ひらかわ）　依知花（いちか）　議員

子ども医療費の限度額

現在、熊谷市周辺の市の子ども医療は無料となっています。しかし、2万1000円以上の負担金があった場合、一度お金を支払ってから後で市に請求する形をとっています。私は夏休みに入院したのですが、医療費が2万1000円を超えてしまい、とても高額な医療費を支払いました。

その時、医療費が払えずつらい思いをしている人もいるのではないかと考えました。

埼玉県内には、限度額がない市もあると聞きました。将来を担う子どもたちが、安心して医療を受けられる環境を作ってほしいです。

【答弁】 福祉部関係

市長

大野真寛議員さん、加瀬浬議員さん、平川依知花議員さんの質問に、私から全般的にお答えします。

初めに、大野さんの「移動販売を増やし、高齢者にとって住みよい街を」についてですが、現在市内では4事業者にご協力をいただき移動販売を実施しています。

しかし、地域や場所によってはまだ実施できていないところや、集客の差があるなど、いくつか課題がありますので、移動販売を必要としている方が無理なく足を運べるよう、販売場所を増やしていくとともに、ボランティアのお力もお借りしながら便利に買い物ができるよう支援していきたいと考えています。そして、移動販売をはじめとする日常の支援を充実させ、高齢者の方が住みよい街づくりを目指していきたいと考えています。

次に、加瀬さんの「もっと気軽に行ける施設」についてですが、市内にある公園施設として、熊谷さくら運動公園や別府沼公園、妻沼運動公園など、遊具が充実している大きな公園があり、多くの子どもたちに喜んでご利用いただいています。

また、現在、石原小学校の近くの蚕業試験場跡地ひろばに、乳幼児の親子をはじめ、小・中学生、高校生も含め全ての子どもたちが、家族や友人と一緒に自由に遊び、学び、体験できる施設として、「熊谷市子育て支援・保健拠点施設」を令和8年4月の開設を目指して計画を進めています。楽しみにしていてください。そして、完成したときには、加瀬さんも是非ご利用ください。

次に、平川さんの「こども医療費の限度額」についてですが、県内では、こども医療費の対象年齢を15歳までとしている市町がある中で、熊谷市では、18歳までを対象としています。高額な医療にかかった場合でも窓口無料で医療を受けられる環境を作るには、多くの費用が必要となります。

引き続き18歳までを対象とするためには、高額な医療費については、まず、健康保険等のほかの制度からの支給を受けた後、こども医療費を支給するような手続としています。

これからも、多くの子どもたちが、無料で医療を受けられるよう取り組んでいきたいと考えています。

福祉部長

続きまして、大野真寛議員さんの「移動販売を増やし、高齢者にとって住みよい街を」についてお答えします。

移動販売は販売場所まで行くことにより、実際に商品を目で見て手に取って選んで購入するという買い物の楽しみを味わうことができることに加えて、会場までの行き来や荷物の持ち帰りを行うことで、体が弱るのを防ぐ運動としての効果を期待する側面もあります。そのようなことを含めて、移動販売を行う企業の協力が得られ、販売を行えるような広い場所が見つかれば、移動販売が増え、便利になると思います。これからも色々な企業に声をかけながら、地域の様子を調べていきたいと考えています。

また、移動販売では、ボランティアの方に、荷物の持ち運びや、袋詰めに協力してもらうと利用する方に喜ばれ、会場も活気づきます。

そういったボランティアの輪が少しでも広がり、地域の多くの皆さんとのふれあいが深

まることで、高齢者の方が住みよいと感じるまちになるよう、参加事業者と協議しながら、様々な工夫や取組を進めていきたいと考えています。

続きまして、加瀬浬議員さんの「もっと気軽に行ける施設」についてお答えします。

市内には、令和2年度に新たな複合遊具を設置した熊谷さくら運動公園、ロングローラー滑り台やロープウェイ遊具などがある別府沼公園、ふわふわドームなどがある妻沼運動公園などの公園施設があり、ご家族で楽しんでいただいています。

また、現在、熊谷市内には19か所の地域子育て支援拠点があり、おおむね3歳未満の子どもがいる親子が利用できます。親子の集いの場、遊び場、居場所としてだけでなく、保育士・子育て経験者などの支援拠点スタッフの提供する手遊びやリズム遊びを楽しめたり、子育ての悩みを相談することもできます。

また、令和8年4月開設予定の子育て支援・保健拠点施設に、仮称こどもセンターを建設し、センター内には、ボールプールや滑り台、クライミングウォールが配置された「プレイルーム」、バスケットボールや卓球、マット運動などができる「軽体育室」などを設ける予定です。

子どもたちが、天候に左右されずに気軽に楽しく遊べる施設になるように、現在、計画を進めているところです。

続きまして、平川依知花議員さんの「こども医療費の限度額」についてお答えします。

皆さんのような中学生をはじめとする子どもの医療費は、皆さんの保護者などが加入している健康保険やスポーツ保険などの様々な制度によって負担されており、熊谷市が実施しているこども医療もその1つです。入院や手術等で、医療費の自己負担金額が21，000円以上の高額なものとなった場合は、健康保険等の負担があるため、その負担分を除いた全額をこども医療費として負担しています。

医療費が高額になった場合は、一時的に窓口負担をお願いすることになりますが、手続をすることで、こども医療費の支給を受けることができます。

これからも、引き続き効率的にこども医療費を支給し、子どもたちが安心して医療を受けられる環境を作ることができるよう、取り組んでいきたいと考えています。

【質問】 質問番号5 環境部関係

議席番号14　荒川中学校　廣澤（ひろさわ） 愛梨（あいり） 議員

環境問題について

現代社会では環境問題への関心が高まっていて、食品ロスやSDGsなどの言葉をよく耳にします。しかし、単語だけが独り歩きをしていて、それらの言葉にどんな意味があるのかを理解できている人は少なく感じます。

そこで、4歳から環境教育を始めるスウェーデンの取組のように、早い段階から学習できるような仕組みを作るのはどうでしょうか。

議席番号15　江南中学校　井口（いぐち） 愛渚（あいな） 議員

自然について

私が住んでいる町には、たくさんの自然があります。しかし、最近では少しずつ森林伐採により緑が減ってきています。

今ある自然を壊さないためにも、シンボルツリーを植えるなどのボランティア活動を推進していくのはどうでしょうか。

議席番号16　奈良中学校　川合（かわい） 月奈（るな） 議員

ポイント制のごみ箱

私が道を歩いている時、空き缶や袋が落ちているのをよく目にします。

そこで、スーパーの前に設置してあるリサイクルステーションにごみを一定の量以上入れると、ポイントや割引券がもらえるというシステムを導入してはどうでしょうか。

スーパーだけでなく、熊谷市役所にも設置することで、色々な人にこの取組が広がれば、熊谷市の活性化につながると思います。

議席番号17　大幡中学校　金子（かねこ） 凛愛（りりあ） 議員

食品ロス対策の見直しについて

一人当たり、1日約113g、年間約41kg。これは私たちの食品ロスの量です。熊谷市では食品ロスの対策として、ポスターやホームページの作成などを行っています。しかし私の身近では、あまり効果が無いように感じるので、新しい対策が必要だと思います。

今、私たちの学校の給食では、給食委員による呼びかけや、ポスター掲示などを行ったり、クラスごとにご飯の量を調節したりして残菜を減らす取組をしています。

食品ロスは、家庭におけるものが最も大きな割合を占めるそうです。家庭での食品ロスを減らすための新しい対策をしていただけないでしょうか。

【答弁】 環境部関係

市長

廣澤愛梨議員さん、井口愛渚議員さん、川合月奈議員さん、金子凛愛議員さんの質問に、私から全般的にお答えします。

はじめに、廣澤さんの「環境問題について」ですが、国連の 2023 年版「持続可能な開発報告書」によると、スウェーデンは SDGs の達成度が、166 か国中第2位であるなど、国民の環境に対する意識が非常に高い国として知られています。これには、幼児期から子どもたちが、自然とふれあいながら学んでいく、伝統的な環境教育が深く関係していると言われています。

一方で熊谷市も、市の中心部から少し離れた田んぼや畑では、穀物や野菜が栽培され、その周辺にある川や沼、ため池などの水辺や森林には、多様な動植物が生息しています。

熊谷の子どもたちが、これらの豊かな自然と小さい頃から日常的にふれあうことで、環境への理解が育まれ、環境学習に自発的に取り組めるような体制づくりにこれからも努めていきたいと考えています。

次に、井口さんの「自然について」ですが、森林は、水をきれいにすることや土砂災害の防止、人に癒しを与えるなど、人間の生活にとって欠かすことのできない存在です。また、木は成長するときに、二酸化炭素を吸収するので地球温暖化防止にも役立っています。シンボルツリーを植えることで、緑化を進め、身近な環境問題を理解していこうとする気持ちは、とても大切なことだと思います。

熊谷市には、森林の保全活動を行っているボランティア団体もいくつかありますが、そのような活動をこれからも応援していきたいと思います。

次に、川合さんの「ポイント制のごみ箱」についてですが、現代社会は、ポイ捨てされたプラスチックごみによる海洋汚染など、地球環境に深刻な課題を抱え、私たちの生活や未来が脅かされています。そこで、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷をできる限り低減した循環型社会を実現する機運が高まっています。そのためには、ごみを正しく回収し、その一部を資源として利用することなどが重要であり、熊谷市では、環境美化活動の一環として、市民が主体となったリサイクル活動が行われています。

このような取組が市内全域に広がることが、美しく活気のある熊谷市につながることと思いますので、是非皆さんも協力してください。

次に、金子さんの「食品ロス対策の見直しについて」ですが、食品ロスとは、本来食べられるのに捨てられてしまう食品のことで、大幡中学校の皆さんが、給食の食品ロスを減らす様々な取組を行っていること、大変素晴らしいことだと思います。

この問題は熊谷市にとっても喫緊の課題であり、これまで様々な対策を行ってきたところですが、今年度、更なる削減に向けて、「熊谷市食品ロス推進計画」の策定に取り組んでいます。この計画では、家庭における新たな取組のほか、事業者の皆さんにもご協力いただく内容も盛り込む予定であり、紹介をいただいた大幡中学校の取組についても是非参考にさせていただきたいと考えています。現在、食品ロス対策の詳細を調査・研究しており、今年度中には、完成する見込みとなっています。

環境部長

続きまして、廣澤愛梨議員さんの「環境問題について」にお答えします。

2023 年の SDGs達成度については、スウェーデンの第2位に対して、日本は世界で第21 位となっており、特に環境に関する項目では、達成が非常に難しくなっている状況です。

近年、森林破壊や海洋汚染、気候変動などが深刻化している中で、身近な環境問題についての興味・関心を高め、必要な知識や技術を習得する環境教育が重要となっています。スウェーデンを含む北欧では、小さな子どもたちを野外に連れ出し、自然を探索させること、また、自然の役割や、人間がどのように自然を管理できるか、幼い頃から環境の持続可能性に関する知識を身に付けるよう環境教育を進めています。

熊谷市には、市民のみなさんの努力により、元荒川に生息するムサシトミヨや江南地域のホタルなど、自然が豊かでなければ見ることができない生物も生息しています。

この熊谷の豊かな自然を学習の場として、自然環境を守ることの大切さや、環境問題への意識づけを子どもの頃から身に付けられる仕組みづくりをこれからも考えていきたいと思います。

続きまして、井口愛渚議員さんの「自然について」にお答えします。

熊谷市の森林の面積は、平成 23 年度末で 445ha、28 年度末で 419ha、令和3年度末で 400ha と、井口さんの指摘のとおり年々減少していますが、その理由の1つとして、森林伐採を伴う太陽光発電所の設置が挙げられます。

太陽光発電は、発電の際に二酸化炭素を排出しない、地球温暖化防止に役立つクリーンなエネルギーですが、一方で、メガソーラーと呼ばれる大規模な発電所の場合、森林を切り開いて設置されるなど、周囲の自然環境を悪化させてしまうこともあります。

熊谷市では、令和4年度に「熊谷市太陽光発電設備の適正な設置等に関する条例」を制定し、設置する方に対し、環境に配慮した設備ができるよう、指導を行っているところです。

また、シンボルツリーなどで緑化を進める自然保護活動も、とてもよい試みだと思います。現在、樹木の苗木を配布し、都市緑化を啓発する「私を植えて」という事業を行っている団体もありますが、このような活動へのサポートも続けていきたいと思いますので、皆さんも機会がありましたら、是非参加してみてください。

続きまして、川合月奈議員さんの「ポイント制のごみ箱」についてお答えします。

「混ぜればごみ、分ければ資源」と言われるように、ごみをリサイクルするには、きちんと分別することが最も大切です。

熊谷市では、自治会ごとに環境美化推進員を委嘱し、分別方法の周知や、美化活動をお願いしているほか、資源の集団回収を実施した市民団体などに、リサイクル活動推進奨励金を交付するなど、市民の皆さんとともにリサイクルの推進とごみの減量化を進めています。

リサイクルの流れは、事業者においても広がりを見せており、独自のリサイクルステーションの設置やポイント付与などの取組も行われています。

循環型社会の実現には、何よりもまず、市民、事業者及び行政が協力して、ルールやマナーを啓発していく必要がありますので、これらの活動に対し、熊谷市のポイント制度であるクマポを活用できないかも検討したいと思います。奈良中学校をはじめ、中学生の皆さんには、身近なリサイクル活動などに、これからも是非ご協力をお願いします。

続きまして、金子凛愛議員さんの「食品ロス対策の見直しについて」お答えします。

令和3年度の日本の食品ロス量は、国の推計によると、約 523 万トンで、これは、東京ドーム約5杯分の量に当たります。また、その約半分の 244 万トンが一般家庭から排出されており、そのほとんどが食べ残しと直接廃棄と言われています。

一方で、日本の食料自給率は、カロリーベースで 38%と大変低く、食料を海外からの輸入に大きく依存しているという現実があります。

このような状況の中、熊谷市では、市報やホームページにおいて、実践事例の紹介や食べきりタイムの推奨、フードドライブの開催など、食品ロス削減のための取組を行っています。

また、今年度策定中の「熊谷市食品ロス推進計画」において、更なる周知・啓発を図るとともに、食品ロス対策について市民や事業者の皆さんと一緒に取り組んでいきたいと考えています。中学生の皆さんも、家や学校などでの身近な食品ロス対策にこれからも御協力をお願いします。

【質問】 質問番号6　産業振興部関係

議席番号18　三尻中学校　風間（かざま）　一花（いちか）　議員

熊谷名物の認知度について

熊谷市にはおいしい郷土料理や名産品などがたくさんあります。しかし、他の市や県の人からの認知度はあまり高くないと感じます。昨年、私の中学校では総合の時間に熊谷名物を各自で調べ、1枚の広告にするという取組を行いました。廊下に掲示された他の人の広告を見て、熊谷のことをより知ることができたと思います。

そこで、熊谷に住む学生がまとめた広告やポスターを、駅やショッピングモールなど多くの人の目に触れる場に掲示すれば、熊谷名物についてより知ってもらえるのではないでしょうか。

議席番号19　妻沼東中学校　大鷲（おおわし）　駿（しゅん）　議員

「雪くまの宣伝」について

日頃から熊谷市を盛り上げ、また暑さ対策にご尽力いただきありがとうございます。

熊谷市は日本一暑い街として有名です。暑い日にはやはり冷たいものに限ります。しかし、熊谷市を代表するかき氷「雪くま」の魅力が身近な友人や家族に浸透しきれていない気がします。

そこで、雪くまをより多くの人に知っていただくために、「創作雪くまグランプリ」の開催を提案します。雪くまの定義にあったオリジナルのかき氷を募集し商品化するグランプリを開催することで、より熊谷市民の雪くまに対する熱を高め、全国に宣伝することができるのではないでしょうか。

議席番号20　熊谷東中学校　土橋（つちはし）　里桜（りお）　議員

熊谷市の「小麦」の知名度について

熊谷市には「五家宝」や「雪くま」など有名な食べ物があると思いますが、「小麦」については「熊谷うどん」だけで、あまり「熊谷＝小麦」というイメージは定着しないと感じます。

そこで「熊谷うどん」以外にも、熊谷産の小麦を使ったスイーツなどの名物的な食べ物を増やすのはいかがでしょうか。

【答弁】 産業振興部関係

市長

風間一花議員さん、大鷲駿議員さん、土橋里桜議員さんの質問に、私から全般的にお答えします。

はじめに、風間さんの「熊谷名物の認知度について」ですが、皆さんは、学校の授業の中で、熊谷の名物について学んだり、市内のお店やイベントに足を運んで、実際に食べたり、見たりしたことがあると思います。

このようなことを通じて、熊谷の良さについて理解を深めることが郷土愛を育み、皆さんが大人になった時に、生まれ育った熊谷が「誇れるまち」となることにつながるものと考えています。

風間さんから提案のあった学生の皆さんがまとめた広告やポスターの作成を含め、様々な工夫をしながら、多くの人の目に留まるようなPR方法を検討し、熊谷名物の魅力を広く発信していきたいと思います。

次に、大鷲さんの「雪くまの宣伝について」ですが、「雪くま」は、今年で誕生18年目を迎え、毎年、夏になるとメディアに取り上げられ、現在では、熊谷の名物かき氷として多くの人に親しまれています。

今年も「雪くまスタンプラリー」を実施したところ、たくさんの方に市内のお店を巡っていただき、新たなファンも増えたことと思います。

大鷲さんから提案のあった「創作雪くまグランプリ」などのイベントは、「雪くま」への関心をさらに高めるきっかけとなる良いアイデアであると考えています。

次に、土橋さんの、「熊谷市の「小麦」の知名度について」ですが、熊谷市は、麦ふみなどの小麦の生産技術を確立した、麦翁(ばくおう)と呼ばれる権田愛三の出身地であり、現在、小麦の生産量は埼玉県で1位、本州でもトップクラスを誇っています。

小麦を使った料理としては、うどんやフライが代表的でありますが、様々なアイデアを活用した、ほかの料理についても研究し、発信していきたいと思います。

産業新部長

続きまして、風間一花議員さんの「熊谷名物の認知度について」にお答えします。

熊谷市には、文化庁 100 年フードに認定された「五家宝」や「妻沼のいなり寿司」、ご当地かき氷の「雪くま」、有数の小麦の産地として地域で親しまれている「うどん」や「フライ」、伝統的手工芸品の「熊谷染」など、皆さんにも馴染みの深い、熊谷ならではの多くの名産品があります。

これらは、他の地域に誇ることのできる「熊谷名物」ですが、市外の方の認知度は、まだ十分とはいえません。

認知度を高めるためには、より多くの人に知ってもらうため、様々なPRが必要だと考えていますが、提案いただきましたように、学生の皆さんに熊谷名物の広告やポスターを作成していただければ、きっと多くの人の目を引く、PR方法の1つとなることでしょう。

また、皆さんにとっても、郷土熊谷をより深く学ぶ機会となり、地域の魅力を再認識していただける非常に良い試みになると思います。

熊谷市には、「うちわ祭」や「花火大会」をはじめとした観光行事、妻沼聖天山の国宝「歓喜院聖天堂」、多くのスポーツイベントが開催される「熊谷スポーツ文化公園」など、市外からも多くの人が訪れる観光資源がありますので、「熊谷名物」がより多くの人に伝

わるような効果的なPR方法を考えていきたいと思います。

続きまして、大鷲駿議員さんの「雪くまの宣伝について」にお答えします。
「雪くま」は、熊谷のおいしい水を生かし、暑い熊谷をおいしいかき氷で涼しくなれる街にしたいと、市内のお店と協力して「雪くまのれん会」を組織し、平成18年7月から販売を開始しました。
当初は、11店舗でスタートしましたが、現在では34店舗に増え、毎年、テレビや新聞にもたくさん取り上げられることもあり、雪くま目当てに、市外からもたくさんのお客様が訪れるようになりました。
今年は、新たなファンを増やすことを目的として、昨年に引き続き、スタンプラリーを実施したほか、本格的なシーズンに入る前に、新作を考案したお店などによる試食会を開催し、「熊谷の名物かき氷・雪くま」を広くPRしました。
ご提案いただきました「創作雪くまグランプリ」のようなイベントは、普段は、食べる側のファンの人も、普及やPRに関わることのできる面白いアイデアだと思いますので、雪くまのれん会の皆さんにもお伝えし、開催方法や宣伝方法などについて一緒に考えていきたいと思います。

続きまして、土橋里桜議員さんの「熊谷市の「小麦」の知名度について」お答えします。
熊谷市は、利根川や荒川等が流れ、肥沃な土壌と豊富な地下水に恵まれ、水路や農地も整備され、米麦、露地野菜や施設野菜など地域の特性を生かし様々な農作物が生産されています。
また、新たな農産物にチャレンジする農業者もいますので、消費拡大の面からも、熊谷市産の農産物を宣伝することは重要であるため、パンフレットやホームページなどを活用して積極的にPRを実施しています。なかでも、小麦の生産量は突出しており、小麦を使った料理は、各家庭で食べられてきた歴史があります。
特に、「うどん」や「フライ」は市内に多くのお店があり、熊谷市の食文化として定着をしていると考えています。
土橋さん提案の小麦を使った新たな料理として、スイーツなどのアイデア料理を増やすことは、小麦を使った名物的な食べ物が増え、熊谷市の小麦のさらなる知名度アップにつながると考えられますので、新しい食べ方を募集するなど、多くの皆様のアイデアをお借りしながら、実施の方法について研究していきたいと思います。

【質問】 質問番号7　都市整備部関係

議席番号21　奈良中学校　富岡（とみおか）　慎太郎（しんたろう）　議員

自転車専用レーンと標識の設置について

私は、自転車に乗っている時、左側を走っていますが、大きい道や歩道が広い道では、その道が車道なのか歩道なのか分からないことがあり、危険だと感じます。

そこで、道の一定の間隔に標識や自転車用の線を引くのはどうでしょうか。そうすることで、車との衝突や歩行者との接触も減ると思います。

議席番号22　大幡中学校　新井（あらい）　琉（るい）　議員

土地の無駄を減らす

空き家・空き地が多く耕作放棄地もあり、土地に対して無駄が多いことが現実として挙げられます。熊谷ならではの自然を増やす活動や、新たな住宅地をつくっていくことで、熊谷の魅力を増やせると思います。

そこで、市民にアンケートをとり、必要な建物を建築することも更なる発展につながると思います。市民にアンケートをとることや、ボランティアの活動として植林活動を行う、等の活動をして欲しいです。

議席番号23　大里中学校　山崎（やまざき）　愛梨（あいり）　議員

移住しやすい街にするには

熊谷市は、国勢調査によると令和 2 年時点の総合人口は約 19.4 万人でしたが、令和 5 年現在では約 19.3 万人です。3 年間で少しずつ人口が減ってきています。

そのため、人口を増加させるために、駅の周辺だけを発展させるのではなく、北部や南部などの各地域でお店を増やすことと、たくさんの企業をたてその地域を発展させることの、2 点を提案させていただきます。

議席番号24　大原中学校　木村（きむら）　颯志（そうし）　議員

活気のある公園にするために

私の自宅の近所にある公園では、遊んでいる人が少なく感じます。気になって調べてみたら、原因として自宅でゲームをしたり、動画を見たりしている人が増えたからだそうです。

そこで、多くの人が公園へ行きたいと思えるように公園で遊んでスタンプを貯められるようなイベントを開催したり、新しい遊具を置いたりしてはいかがでしょうか。

【答弁】 都市整備部関係

市長

富岡慎太郎議員さん、新井琉議員さん、山﨑愛梨議員さん、木村颯志議員さんの質問に、私から全般的にお答えします。

初めに、富岡さんの「自転車専用レーンと標識の設置について」ですが、市民の皆さんにとって、自転車は買い物や通勤、通学などに、手軽な移動手段として欠かせないものとなっています。

また、近年の健康ブームや環境意識の高まりなどを背景に、自転車の利用ニーズがさらに高まっています。

このことから、令和4年3月に「熊谷市自転車活用推進計画」を策定し、自転車の交通環境の改善に向けて、安全・安心に自転車で走行できる通行空間の計画的な整備を進めています。

次に、新井さんの「土地の無駄を減らす」にお答えします。

近年の我が国の人口減少傾向は、本市においても例外ではなく、低未利用地の有効利用を進めていく必要があると考えています。

そこで、都市と自然の調和した利便性の高い、コンパクトな住環境を実現するため、空いてしまった家屋、土地への対応や、耕作されていない遊休農地等への対策として、流動化を促進することで効率的な土地利用を推進しています。

次に山﨑さんの「移住しやすい街にするには」に、お答えします。

本市における人口推計の見通しは、減少傾向が若干緩やかになったものの、その歯止めが掛けられたわけではありません。

そこで、市政運営の根幹となる「熊谷市総合振興計画」や、まちづくりの指針である「熊谷市都市計画マスタープラン」において、市内の中央地域と東西南北の地域の各拠点を有機的なネットワークで結ぶ「多核連携型コンパクト・プラス・ネットワーク」を基本的な考え方として、商業等の都市機能の維持・充実や企業誘致など、地域特性に応じて各拠点の特色を生かした取組を進め、「ずっと本市に住み続けたい」と思ってもらえるようなまちづくりを進めています。

次に木村さんの「活気のある公園にするために」について、お答えします。

以前に比べ、ポータブルゲーム機やスマートフォンの普及などもあり、屋外で遊ぶ以外にも、屋内で過ごす選択肢も増えていると認識しています。公園をはじめとした屋外で体を動かすことは、五感を最大限に刺激し、こころ・頭・体の成長にとても良いことです。

そのため、多くの方が楽しく過ごしてもらえるよう、市民のニーズに即した公園整備を進めていきたいと考えていますので、今後も家族や友人と公園をご利用ください。

副市長

続きまして、山﨑愛梨議員さんの「移住しやすい街にするには」についてお答えします。

本市では、「都市計画マスタープラン」の中で、全体構想を基に地域ごとの具体的なまちづくりの方針を、「地域別構想」として、それぞれの地域の土地利用や産業・活力などの分野別の取組を示しています。

例えば、南部地域においては、豊かな緑で心が満たされる安心・安全な地域の形成を目指すとともに、産業拠点周辺への産業集積や道路交通網を生かした産業系開発の促進を図ることとしています。

また、北部地域においては、歴史や緑を体感・共感できる、暮らしやすい地域の形成を目指すこととしています。

その施策の一つとして、空き店舗等の活用による魅力的な店舗の立地・集積を促進しており、洋菓子店や書店などがオープンしています。

このほか、地域の魅力を向上させる取組として、観光交流拠点である妻沼聖天山周辺では、地元ボランティア団体や市内の高校生との協働で、まちなかを回遊したくなる景観形成にも取り組んでいます。

是非、まちなかを歩いて新たな魅力を発見してみてください。

今後も、地域の発展のため、様々なまちづくりに取り組んでまいりますので、皆様のご協力をお願いします。

都市整備部長

続きまして、富岡慎太郎議員さんの「自転車専用レーンと標識の設置について」にお答えします。

自転車が通行する空間の整備は、令和3年度に策定した「自転車活用推進計画」に基づき、自転車利用の多い市街地の道路や、公園・スポーツ施設に接続する道路などを中心に、順番に進めてきています。

現在までに、約27kmの整備が終わっており、令和8年度までに、さらに37kmを整備するべく、取り組んでいるところです。

整備の方法は、歩道、車道、自転車道を構造物で分離する方法や、歩道内や車道の端に通行帯を表示する方法などがあり、道路幅や通行量に応じた整備手法を採用しています。

また、道路整備とあわせて、利用者にわかりやすい標識や路面標示等の設置を進めています。

富岡さんがお住いの奈良地区には、東武線跡地に緑道が通っていますが、今年度から自転車通行空間の整備が始まります。北側から順次、整備を進め、令和8年度には完成する予定ですので、もうしばらくお待ちいただきたいと思います。

これからも、国や埼玉県と協力し、安心・安全に走行できる自転車通行空間の整備を進め、そのネットワークを広げていきたいと考えています。

続きまして、新井琉議員さんの、「土地の無駄を減らす」についてお答えします。

本市は、各地域拠点等を中心に利便性の高いまちづくりを行う一方、自然と共生する地域との調和を図り、メリハリある土地利用を図っています。

一方で、空き家、空き地や遊休農地の問題も存在しています。これらについては、持ち主に適正な管理をお願いするとともに、空き家、空き地については、市街地や農村集落地のそれぞれの地域特性に応じて、新たな店舗や営農希望者への活用を促進し、また遊休農地は、新たな農業の担い手への利用促進を通じて、流動化を促進するなど、土地の有効利用を推進しています。

さらに、現在、進行中のまちづくりの一例として、籠原駅の周辺において、環境配慮型の良好な住宅地を形成するため、スマートエコタウン事業を進めています。この地区では、熊谷の気候に適したまちづくりを進め、地区内に植樹するなど、効果的な緑の配置ができるように検討しています。

そのほか、新たな取組として、市民アンケートのほかにも、パソコンやインターネットを活用し、3D のバーチャルなシミュレーションによるまちづくりも始まりました。熊谷のまちがインターネット上に3D で再現されていますので、皆様も是非ご覧ください。

今後も、まちづくりに合わせて、植林を含めたボランティア団体を支援するなど、多様なまちづくりの取組を進めていきますので、皆様のご協力をお願いします。

続きまして、木村颯志議員さんの「活気のある公園にするために」にお答えします。

現在、熊谷市で管理している公園は411か所あります。そのうち、熊谷さくら運動公園や別府沼公園などは、市内外から多くの方にご利用いただいています。

また、熊谷市はスポーツのチームが数多くあるため、今年度スマートフォン等を利用した「スポーツスタンプラリー」を開催し、市内の運動公園に来ていただくイベントを実施しています。これによりスポーツを通じて市内外からの集客力向上の効果が期待されています。こうした例を参考に、公園のにぎわいにつながるような取組を、これからも進めていきたいと考えています。

次に、新しい遊具の設置ですが、今ある遊具の点検を毎年行い、古くて危険な遊具から優先的に入れ替えを行っています。市内には、たくさんの公園があるため、すぐに全ての遊具を新しくすることはできませんが、地域の活性化の拠点として役立ち、魅力のある公園整備を心掛けていきます。

これからも、多くの方が訪れ、誰もが気持ちよく安心して利用できる公園の整備や管理に努めていきたいと考えています。

【質問】 質問番号8　建設部・上下水道部関係

議席番号25　大原中学校　木村（きむら）　紅葉（もみじ）　議員

道路の冠水について

現在、通学路として使用している学校の近くの道路において、少し雨が降っただけで、道路いっぱいに冠水し、通行しづらくなってしまう道があります。また、同じような場所が市内の至るところにあるように思います。側溝の整備を進め、排水がうまくできるように道路の状況を改善していただきたいです。

また、道路が冠水していることは雨が降った時だけしか分からない情報なので、市の職員の方だけでは情報の収集が難しいと思えます。業者の方に依頼するなどし、冠水している場所の情報を集め、必要度の高いところから整備を進めていく必要があると思います。

議席番号26　中条中学校　塚本（つかもと）　佑京（うきょう）　議員

熊谷市の地下水について

熊谷市の水道水は、約74％を地下水で賄っているため、ミネラル分が含まれ、おいしい水といわれています。しかし、このことはあまり知られていないと思うので、熊谷市の水道水のおいしさをPRするというのはどうでしょうか？

【答弁】 建設部・上下水道部

市長

木村紅葉議員さん、塚本佑京議員さんの質問に、私から全般的にお答えします。

初めに、木村さんの「道路の冠水について」ですが、近年では地球温暖化やヒートアイランド現象などの要因が重なり、ゲリラ豪雨等による道路冠水の発生が増加傾向にあります。

そのため、熊谷市では計画的に雨水の放流先となる側溝や水路、河川の改修を進めています。

また、冠水状況の確認については、市職員だけでは難しいため、市民の皆様からの情報をもとに、現地を確認して現状を把握し、その軽減対策などに努めています。

これからも、安心安全のまち熊谷を創るため、生活環境の改善に取り組みます。

次に、塚本さんの「熊谷市の地下水について」ですが、熊谷市は、豊富で良質な地下水に恵まれ、水道水を全て地下水で賄っていた昭和60年当時には、国の「おいしい水研究会」の水道水ランキングで、全国2位になったこともあります。

しかし、都市の成長とともに、地盤沈下の防止や水質事故に備える必要が生じたことから、水道水の安定供給のため、利根川の表流水を利用した県営水道の受水を開始しました。

こうした経緯もあり、重要なライフラインとしての機能維持のため、地下水の割合を減らしてきましたが、熊谷市の水道水は、おいしい地下水の割合が他市に比べると、まだまだ多いので、本市の魅力の一つだと考えています。

建設部長

続きまして、木村紅葉議員さんの「道路の冠水について」にお答えします。

側溝の整備は、地元の自治会等から要望を受けて、必要性や整備効果の高い路線から順番に整備を進めています。

また、大原地区については、雨水の排水先が未整備なため、かめの道周辺で雨水を貯留、浸透する施設の設置を現在検討しているところです。

道路状況の確認については、ご指摘のとおり、市職員のパトロールだけでは情報の収集が難しいため、最近では FixMyStreetJapan(フィックス　マイストリート　ジャパン)というスマートフォンのアプリから写真と地図情報付きで道路の不具合等を通報できるシステムも導入しています。

これからも地域の皆様にご理解、ご協力をいただきながら、安心安全に生活できるための道路の整備を進めていきます。

上下水道部長

続きまして、塚本佑京議員さんの「熊谷市の地下水について」にお答えします。

熊谷市の地下水は、適度なミネラル分や遊離炭酸を含み、有機物などが少なく、嫌な臭いがない水であり、水温も20度以下で、国の「おいしい水研究会」がまとめた水質の要件に適合しています。

現在、熊谷市の水道水は、お住いの地区によって差はありますが、平均すると約7割を、このおいしい地下水が占めています。

しかし、令和4年度に実施した「まちづくり市民アンケート」によると、熊谷市の水道水に満足している市民の割合は、60.1 パーセントにとどまっています。

これは、安全性の面から、水道水に塩素消毒が義務付けられているため、多少の塩素臭が残っていることや、地区によって、地下水の割合に違いがあるためと考えられます。

水道は、安全で安心な水の安定供給が第一と考えていますが、市民皆様の満足度の向上を目指し、安定供給を維持することに加え、おいしさをPRする方法も検討したいと思います。

【質問】 質問番号9　選挙管理委員会関係

議席番号27　江南中学校　森口（もりぐち）　健太（けんた）　議員

投票率の低下について

熊谷市では、年々投票率が低下しています。友人に聞いてみると、周囲の大人の約半数が選挙に行っていないという現状があります。理由を聞いてみると、面倒だからと言っていました。

そのような「面倒」という声をなくすためには、熊谷市内のいろいろなお店で、投票証明書の提示による割引をもっと広める必要があると思います。また、投票証明書をどうやったらもらえるのかをたくさんの人に知ってもらう必要があります。そのためには、ポスターなどを作成し、掲示することを提案します。

【答弁】 選挙管理委員会関係

市長

森口健太議員さんの質問に、私から全般的にお答えします。

選挙の投票率は、全国的に低下傾向が続いていて、特に18歳から20歳代の若い世代の投票率が、他の年代に比べて低くなっています。
熊谷市では、今年4月に統一地方選挙、8月に埼玉県知事選挙が行われましたが、それぞれ前回を下回る投票率となりました。

その原因については、その時々の社会情勢や政治的課題、有権者の意識など様々な要因が考えられますが、新聞報道等によると「政治的無関心」が要因の一つといわれています。

「選挙」は、より良い生活や社会を実現するために、私たちの意見を反映させてくれる代表を決めるものです。そのために選挙や政治に対する関心を高め、店舗による割引などに左右されるのではなく積極的に投票する意識を持ってもらうことが重要であることから、様々な取組で投票率向上の啓発をしていきたいと考えています。
皆さんも、18歳になると選挙権を持ちます。若い世代の意見も取り入れた政治が行われ、みんなが暮らしやすい社会になるよう、投票という形で皆さんの声を届けることで政治に参加してください。

選挙管理委員会事務局長

続きまして、森口健太議員さんの「投票率の低下について」にお答えします。

選挙管理委員会では、有権者が勤務先に提出することなどができるよう、投票が済んだことの証明書として「投票済証」を投票所内で希望者にお渡ししています。

投票済証の提示による割引については、店舗等が、投票率向上や店の活性化のため、独自にサービス内容を決定し、利用者等にお知らせしていると考えられ、今年行われた選挙でも割引サービスを提供した店舗があったようです。

このような店舗の割引サービスを、公平・公正を旨とする選挙を行う選挙管理委員会がお知らせすることは控えたいと考えていますが、希望者に投票済証をお渡ししていることについては、ホームページに掲載することを検討したいと思います。

「選挙」は、自分たちの代わりにその意見や思いを反映させてくれる代表を決めること、という考えを市民の方に意識していただけるよう、小中学生を対象とした「家族で投票所へ行こうキャンペーン」や高等学校での選挙出前講座など、これから有権者となる若い方に対しても啓発活動を行い、選挙や政治への関心を高め、投票率の向上に努めていきたいと思います。

【質問】 質問番号10　農業委員会関係

議席番号28　妻沼西中学校　長牛（ながうし）　美嘉（みか）　議員

通学途中の環境について

自宅から学校までの道の雑草やごみが気になります。

また、活用されていない田畑の雑草が自分の背丈より大きく伸びていて視界が悪く危ないです。そのような田畑が荒れているのは、持ち主が亡くなったり、管理する方が近くにいなかったりするなど、様々な理由が考えられますが、視界が悪いことで事故に巻き込まれるリスクがあると思います。

この先相続する人が減ることも予想され、今以上に荒地が増えると思います。市としてどのような対策を考えているのか、教えていただきたいです。

【答弁】 農業委員会関係

市長

長牛美嘉議員さんの質問に私から全般的にお答えします。

長牛さんが指摘のとおり、遊休農地が増大し、雑草の繁茂により見通しが悪くなるなどの問題が市内の他の地域でも発生しています。農家の高齢化や後継者減少による管理不足がその大きな原因ですが、これは熊谷市だけではなく、全国的な問題ともなっています。

元気な農業を作ることは、私の大きな政策の1つです。熊谷市は大都市近郊に位置し、比較的平坦な地形であり、農業を営むには良好な環境に恵まれている利点を生かし、地域で中心的に農業を営む農家に農地を集めたり、新たに農業を始めたい人を積極的に呼び込んだりして、農地の活用を図り、遊休農地の解消や地域の活性化につながるよう対策を進めています。

また、市内各地区において将来を見据えた「地域計画」策定に向けて意向調査を実施するなど、未来の熊谷をより良いものとするための事業を着実に実施していきます。

農業委員会事務局長

続きまして、長牛美嘉議員さんの「通学途中の環境について」にお答えします。

農業委員会では、雑草等が生え、適切に管理できていないといった相談をいただいた農地については、所有している方に対して、適切な管理をするよう指導を行っています。

毎年9月頃に、農業委員や農地利用最適化推進委員が農地パトロールを行っており、荒れた農地の所有者に対して、今後この農地をどうしたいと考えているのかを確認する調査を行い、その後の適切な対応を促しています。

また、今年度は、地域の将来を見据えた「地域計画」を策定するための基礎資料として農地の所有者を対象とした「意向調査」を実施しています。この結果をもとにそれぞれの地域で十年後を見据えた計画を練っていくことになります。

また、長牛さんの質問にあるような住まいが遠くの方や、農家ではない方が相続した場合など、自分で管理することが難しい方には、耕作者を探すお手伝いをしています。

さらに、荒れた農地の草刈りをJAくまがやに依頼した場合には、費用の一部を補助する事業を行っており、適切な管理がなされるような対策も行っています。

他にも、熊谷市では担い手育成塾を開設し、新たな農家を増やす試みや、農地の整備や農機具更新など、農家の作業効率を向上させる事業を行っており、これからも対策を考えていきたいと思います。

【質問】 質問番号11　教育委員会関係

議席番号29　玉井中学校　六本木（ろっぽんぎ）　俊吾（しゅんご）　議員

登下校時の暑さ対策について

世界的に見ても、今年の夏は異常気象であり、過去に例を見ない気温といわれています。熊谷市を見てみると今年の８月の平均気温は29.7℃。これは気象庁によると統計開始以降最も高かったそうです。玉井中では、学校に置いてある「暑さ指数測定装置」を活用し、学校生活における熱中症対策に取り組んでいます。部活動でも、定期的に暑さ指数を計測し、熱中症にならないように気を付けていました。

一方で、学校の登下校時には、暑さでつらい時もあり、熱中症にならないかとても不安を感じました。特にこれが小学校低学年であるならば、とても危険なのではないでしょうか。

そこで、学校内だけではなく、登下校時における熱中症対策について、市として今後何か取組があれば教えてください。

議席番号30　三尻中学校　今中（いまなか）　健介（けんすけ）　議員

子どもの体験活動について

熊谷市では「ウィークエンドサイエンス」や「わくわく探検隊」など子どもの体験活動があります。以前、私自身も参加しましたが、楽しく、貴重な体験活動でした。一方で、ある時は定員が少なかったため、抽選に外れ、活動に参加できず、残念な思いもしました。

そこで、今後定員や実施回数を増やすことは可能でしょうか。もしくはインターネットを利用し、抽選で外れた人たちもオンラインで参加できるようにしたり、体験活動の内容を動画配信したりするのはどうでしょうか。熊谷市の子どもの体験活動がより充実すると良いと思います。

議席番号31　吉岡中学校　新井（あらい）　心（しん）　議員

市の文化財を活かして

熊谷市の中でも中心部から離れている吉岡、江南、大里、妻沼地区には豊かな自然があり、魅力的な文化財もたくさんあります。しかし、実際には、その全ての文化財を知っている人は少ないです。「くまここ」などのアプリで、文化財の紹介や散歩ロードのルート紹介はされていますが、より多くの人に文化財を知ってもらうため、熊谷市の魅力を発信する力をさらに高めたり、江南文化財センターの仕事体験や出前授業を行っていただくのはどうでしょうか。熊谷市の魅力を知ることで若い人の流出も防げますし、新たな観光のまちとして発信できると思います。

【答弁】 教育委員会関係

市長

六本木俊吾議員さん、今中健介議員さん、新井心議員さんの質問に、私から全般的にお答えします。

はじめに、六本木さんの「登下校時における熱中症対策」についてですが、今年の夏は過去に例を見ない猛暑の日が続きました。児童生徒の皆さんが熱中症にならないよう十分配慮し、教育活動を行っています。

六本木さんのおっしゃるとおり、とりわけ、登下校時における熱中症対策はとても大切と捉えています。熊谷市では、小・中学校それぞれ対策を行っており、登下校時の傘差し推奨や夏用体操服での登下校などの例があり、引き続き対策を行っていきます。

次に、今中さんの「子どもの体験活動について」ですが、ウィークエンドサイエンスで科学の楽しさを感じ、わくわく探検隊では、市内の施設や歴史的に由緒ある場所を訪問しています。

体験活動は、自ら学び自ら考える力を養う上で、とても重要であると考えています。

これらの活動をとおして、興味関心の幅を広げ、科学の不思議さ、熊谷の魅力について新しい発見ができることを願っています。

次に、新井さんの「市の文化財を活かして」についてですが、新井さんもご存じのとおり、熊谷市内には、今から2万6千年前の昔から現代に至るまでの、長い熊谷市の歴史や文化を物語る、魅力ある貴重な文化財など文化遺産が、数多くあります。そして、これらを市内外の皆さんに知ってもらい、魅力を感じていただくことは、熊谷市に、これからもずっと住み続けたい、住んでみたいと思う良いきっかけになると考えます。

したがって、文化財などの魅力をさらに発信し、観光資源としても生かしていくことは、熊谷市にとって大切なことと考えています。

教育長

続きまして、六本木俊吾議員さんの「登下校時の暑さ対策について」お答えします。

現在行っている、登下校時における熱中症対策ですが、小学校では、傘さし登下校を推奨しており、市内在住の小学生に熊谷市オリジナルの日傘を配布しています。また、児童に熱中症予防について話をしたり、のどが乾く前にこまめに水分補給するよう呼びかけしたりしています。

中学校では、先生方による下校の見守りや、夏用体操服の半袖・ハーフパンツでの登下校、帽子の着用、徒歩通学生徒の日傘利用など、学校ごとに様々な工夫やきまりの緩和をしているところです。また、市内すべての中学校で、熱中症対策の講習や、応急処置や心肺蘇生の講習及び実習を行い、熱中症に関する基礎・基本を身に付け熱中症予防を行っています。

今後も、小・中学校での熱中症対策を徹底し、児童・生徒が安全に登下校できるようにしていきます。

続きまして、今中健介議員さんの「子どもの体験活動について」お答えします。

熊谷市主催のウィークエンドサイエンスやわくわく探検隊などの体験活動を企画する

上では、参加する皆さん一人一人にとって、充実した時間が確保できるように、ボランティアの先生方や訪問先の相手方と打ち合わせを重ね、募集人数、実施時期や回数などを調整しています。体験活動の様子は、子ども広報「くまがやキッズ」や市のホームページ内の「キッズページ」をとおして、お伝えしています。また、「くまがやキッズ」では、「おうちでもサイエンス」の記事で、自宅でもサイエンス体験が楽しめる内容を掲載していますので、今中さんも是非活用してください。

体験活動は、五感を総動員し、実感することがとても大切です。

市の事業として、現状の実施回数を大幅に増やすことは難しいですが、今後、今中さん提案の動画配信もできるよう検討していきます。これらの体験活動をきっかけとして、皆さんが興味関心の幅を広げ、体験できる機会や場所を探し、自ら体験していく力を養っていくことを、期待しています。

続きまして、新井心議員さんの「市の文化財を活かして」についてお答えします。

江南文化財センターでは、これまで、毎年のように、新井さんも通う吉岡中学校、江南中学校の職場体験の受入れを行ってきました。その内容は、江南文化財センターの主な仕事の、遺跡から出土した土器などの整理作業はもちろん、発掘調査の現場作業、文化財の見学や星溪園の日常管理の仕事などを体験してもらっていて、これらの体験をした皆さんから大変好評を得ています。

ところで、新井さんは、熊谷市の市政宅配講座をご存じでしょうか。その講座のメニューとして、「わくわく土器ドキ石器講座」、「あなたも古代人「まが玉づくり」講座」、「国指定史跡「幡羅官衙(はらかんが)遺跡群」を知る」など、江南文化財センターが用意した講座が多数あります。そして、これらの講座を利用していただき、これまで、小学校・中学校をはじめ、公民館など多くの場所に、江南文化財センターの職員が出向き、講座を開講してきました。

これからも、江南文化財センターは、職場体験や出前講座を実施していきます。また、多くの皆さんに参加していただくため、今後も積極的に情報発信していきたいと思います。

新井さんも、是非PRにご協力ください。そして、機会があれば参加してみてください。

【質問】 質問番号12　消防本部関係

議席番号32　大麻生中学校　志村（しむら）　拓音（たくと）　議員

一人でも多くの命を救うために

熊谷市は暑さで有名で、熱中症になってしまうことが心配されます。もし、熱中症により意識がなくなった場合は、一次救命措置を行うこともあります。

そこで、暑さ対策日本一を目指すため、子どもから大人まで「心肺蘇生法」や「AED」の使い方を学べるイベントを開催するのはどうでしょうか。

【答弁】 消防本部関係

市長

志村拓音議員さんの質問に、私から全般的にお答えします。

熊谷市では、市民の皆さんの命や健康を守るため、これまで様々な暑さ対策を行ってきました。これらの取組は多くの賞をいただくとともに、メディアでも紹介され、暑さ対策日本一として発信をしてきたところです。

また、一人でも多くの命を救う対策として、市内全ての小・中学校や多くの市有施設等にAEDの設置を進めてきました。

さらに、設置したAEDを多くの方が適切に使用できるように、各地域の自主防災会の防災訓練、企業や福祉施設での救命講習会、産業祭等のイベントにおいて、心肺蘇生法やAEDの使い方を学んでいただいています。

中学生の皆さんにも「暑さ対策」地域へ発信！中学生サポーター事業として、熱中症の応急手当やAEDを使用した心肺蘇生法の授業を受けていただいています。

より多くの人が応急手当の知識や技術を学ぶことが重要ですので、志村さんのご提案のとおり、大切な命を救うことができるよう、これからも、応急手当のイベントの機会を増やしていくことが大切と考えています。

消防長

続きまして、志村拓音議員さんの「一人でも多くの命を救うために」についてお答えします。

突然倒れた人を救うためには、救急車が到着するまでの間、その場に居合わせた人による救命措置が必要となりますので、より多くの人が応急手当の知識や技術を学ぶことが大変重要です。

熊谷市では、救命率の向上を目的とした事業に積極的に取り組んでいます。

中学生以上の方を対象とした救命講習会では、市内の企業や福祉施設、学校等において、昨年度142回開催し、2,597人の方が受講をされています。

また、産業祭や総合防災訓練等の大規模なイベントにおいては、応急手当に関するブースを設け、普及啓発に取り組んでいます。

これからも一人でも多くの命を救うため、子どもから大人まで、より多くの人に参加をしていただける、講習会等の開催を積極的に行っていきたいと思います。